

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「かがっぼい話」

「かがっぼい」、これは眩しい状態や光輝くそのさまを言い表す新潟の方言です。

南北に細長い地形の県内は、方言の地域差が大きいことも特徴のひとつですが、「かがっぼい」は、おおむね県内どこでもみられることばです。厳密には、佐渡と富山・長野に隣接する地では、「かがっぼしい」と表現することが多いのですが、富山は「まばやしい」、長野は「ままっこい」「ひどろっこい」と表現することからみると、「かがっぼい系」は新潟ならではの表現といえましょう。

『あらま、わたくし、知りませんわ、そんな言い方』という方、たとえば室内から急に明るい戸外に出たとき、お陽様サンサン・カンカン照りの際、思わず目を細め右手で手かざし状態を想像してください。あるいは、佐渡の暗い金山坑内で、偶然発見した黄金に目がくらむそのさまを想像してください。

この「眩しい状態」を表す方言には、全国でもさまざまなものが見られます。たとえば、山梨は「ひどろい」で、長野の一部は「ひどろっこい」。どちらも「太陽系」「お日さま系」の「ひ」に通じることばです。静岡や愛知では「ひずるしい」。これはおそらく「日出ずる」からきているように思われますから、やはり「お日さま系」といえましょう。

富山の「まばやしい」は、「まばゆい」からと、こちらは分かりやすい表現です。中国・山陰地方、そして九州地方もこれまた分かりやすく「まばいい」と「まばゆい系」。沖縄地方では「みいぴからしゃん」で、こちらも独特なことばです。ピカランピカ

ランと、ピカピカ・キラキラよりももっと強い沖縄地方の照りつける日差しの強さが伝わってきて味わい深い響きです。

北陸地方や関西地方は「まぶい」がみられますが、東京を中心とした「眩しい」と同じ「眩しい系」です。なお、「マブイ」という表現で美人系の「イオンナ」を意味することがありますが、これは俗語、昭和に入ってから一部で使われた隠語のようなもので、方言とは言い難いようです。まあ、目も眩むほどのイイ女、ということで眩しいことには変わりありませんが、新潟版「かがっぼい」は、決して「かがっぼい女の人」とか「かがっぼい頭の人」というように、人に関しては使用いたしませんのでご安心(?)を。なお、「かがっぼい」とは、そのモノヤコトの状態が「輝かしい」の「かが」からきていることばと思われまふ。

また、お隣金沢、きらびやかな加百万石を意識して「かがっぼい!」と称していた、ということは何ソです、デマです、テンポです。

調べていくと、古くは「太陽の眩しさ」以外にも、冬の雪の白さや雪の反射を「かがっぼい」と表現していたようで、雪深い越後ならではの表現といえましょう。

春のおだやかなきらめき、夏の力強い照り返し、秋の海に沈む夕日、冬の雪の白い輝き…、どれも新潟の「かがっぼい」四季の光です。

